

令和5年度（2023年）

# 事業報告書



社会福祉法人友興会

## < 目 次 >

1 法人概況	3
2 経営指標の推移	6
3 総括	7
4 事業部別 事業報告	8
法人本部	8
児童養護施設クリスマス・ヴィレッジ	9
児童養護施設クリスマス・ヴィレッジ ショートステイ	17
特別養護老人ホームグレイスホーム	20
特別養護老人ホームグレイスホーム ショートステイ	22
高齢者在宅サービスセンター西新井本町友興の園	24
児童心理治療施設ノアーズ・ガーデン	26
特別養護老人ホーム高浜けいあいの里	38
高浜けいあいの里 通所介護	40
高浜けいあいの里 居宅介護支援事業所	42
和田地区在宅介護支援センター	44
児童養護施設クリスマス・フォレスト	46
児童養護施設クリスマス・フォレスト ショートステイ	49
児童養護施設クリスマス・フォレスト フォスタリング事業	51
居宅介護支援事業所	54

## 1 法人概況

---

### 【基本理念】

多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、社会福祉事業を行います。

### 【経営理念】

社会福祉事業の主たる担い手として相応しい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとします。

### 【実施事業】

#### (1) 第一種福祉事業

児童養護施設クリスマス・ヴィレッジ	(定員 54 名)
特別養護老人ホームグレイスホーム	(定員 50 名)
児童心理治療施設ノアーズ・ガーデン	(定員 24 名)
特別養護老人ホーム高浜けいあいの里	(定員 80 名)
児童養護施設クリスマス・フォレスト	(定員 30 名)

#### (2) 第二種福祉事業

高齢者在宅サービスセンター西新井本町友興の園	(定員 35 名)
デイサービスセンター高浜けいあいの里	(定員 19 名)
特別養護老人ホームグレイスホーム (短期入所事業)	(定員 8 名)
短期入所生活介護高浜けいあいの里	(定員 10 名)
児童養護施設クリスマス・ヴィレッジ (子育て短期支援事業)	(定員 7 名)
児童養護施設クリスマス・フォレスト (子育て短期支援事業)	(定員 6 名)
在宅介護支援センター	

#### (3) 公益事業

居宅介護支援事業所 友興の園	
居宅介護支援事業所 高浜けいあいの里	
里親養育包括支援業務 クリスマス・フォレスト	

【役員構成】

評議員	理事	監事
7名	6名	2名

【役員会開催状況】

評議員会 (全2回)	R04.06.15	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①令和4年度 事業報告について</li> <li>②新規事業「クリスマス・フォレスト」について</li> </ul> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①令和4年度 計算書類の承認について</li> <li>②定款変更(案)について</li> <li>③福祉用具貸与事業所の廃止について</li> <li>④理事及び監事の選任について</li> <li>⑤役員の報酬総額について</li> </ul>
---------------	-----------	---

理事会 (全回)	R05.04.01	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①理事長の選任について</li> </ul>
	R05.05.25	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①令和4年度 事業報告(案)について</li> <li>②令和4年度 計算書類の承認について</li> <li>③定款変更(案)について</li> <li>④福祉用具貸与事業所の廃止について</li> <li>⑤規程変更(案)について</li> <li>⑥D&amp;O 保険について</li> <li>⑦評議員選任・解任委員の選任について</li> <li>⑧評議員候補者の推薦について</li> <li>⑨理事及び監事候補者の推薦について</li> <li>⑩理事及び監事の報酬総額について</li> <li>⑪評議員会の開催について</li> <li>⑫評議員選任・解任委員会の開催について</li> </ul> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①理事長の業務執行状況について</li> </ul>
	R05.06.15	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①理事長の選任について</li> <li>②法人本部長の選任について</li> </ul>

		③公募について
	R05.09.04	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>①文京区小日向二丁目国有地における特別養護老人ホーム等整備・運営事業者公募について</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>①クリスマス・フォレストでの事故について</p> <p>②高浜けいあいの里での事故について</p>
	R06.01.25	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>①規程変更（案）について</p> <p>②1次補正予算（案）について</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>①実地検査結果について（本部・ヴィレッジ・）</p> <p>②文京区小日向二丁目国有地における特別養護老人ホーム等整備・運営事業者公募結果について</p>
	R06.03.28	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>①2次補正予算（案）について</p> <p>②令和6年度事業計画（案）について</p> <p>③令和6年度当初予算（案）について</p> <p>④ノアーズ・ガーデン施設長の任命について</p> <p>⑤規程変更（案）について</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>①ノアーズ・ガーデン 定員変更について</p> <p>②実地検査結果について（ノアーズ・フォレスト）</p> <p>③理事長の業務執行状況について</p>

### 【職員体制】

	施設長・管理者	課長・主任	合計
法人本部	正能 達也	原 武士	常勤 2名
クリスマス・ヴィレッジ	青木 健	田嶋 友雅 手島 ゆみ子 熊崎 綾一 長澤 克樹	常勤 73名 非常勤 16名
グレイスホーム	犬木 一夫	梶川 貴子 伴 隆雄	常勤 33名 非常勤 16名
ノアーズ・ガーデン	玉城 孝	松本 一史 渡邊 雅也	常勤 27名 非常勤 0名
高浜けいあいの里	松山 和美	栗駒 典子 上ノ山 美奈	常勤 40名 非常勤 31名

クリスマス・フォレスト	山本 正晃	湊 規子 手島 ゆみ子 坂本 直人	常勤 43 名 非常勤 10 名
-------------	-------	----------------------	---------------------

【苦情解決体制】

	苦情解決 責任者	苦情解決 第三者委員	苦情受付 担当者
ヴィレッジ拠点	青木 健	渡邊 義也 大村 みさ子	手島 ゆみ子 浅倉 里奈 興石 圭佑
グレイス拠点	犬木 一夫		伴 隆雄
フォレスト拠点	山本 正晃		手島 ゆみ子 坂本 直人
ノアーズ拠点	玉城 孝	砂川 恵正 島袋 裕美	松本 一史
高浜拠点	松山 和美	福谷 寿子	上ノ山 美奈 福井 加奈

## 2 経営指標の推移

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
介護保険事業収入	804,243,217	802,188,217	825,427,027
児童福祉事業収入	988,560,226	1,069,043,103	1,317,354,649
経常経費寄付金収入	6,659,806	4,821,059	3,189,105
その他収入	28,934,957	47,010,364	32,566,977
事業活動収入計	1,828,403,255	1,923,062,743	2,178,544,427
人件費	1,234,265,007	1,320,453,245	1,455,483,078
事業費	256,191,676	296,258,211	292,650,841
事務費	184,949,399	189,621,420	204,124,357
その他支出	7,350,814	11,139,166	7,900,382
流動資産評価損等による資金減少額			1,247,948
事業活動支出計	1,688,862,501	1,817,472,042	1,965,071,241
事業活動収支差額	139,540,754	105,590,701	213,473,186
施設整備等収入計	135,011,000	948,695,672	3,187,000
施設整備等支出計	244,814,961	1,055,965,098	68,795,688
施設整備等資金収支差額	109,803,961	△107,269,426	-65,608,688

その他の活動収入計	206,133,130	90,874,136	66,779,394
その他の活動支出計	161,955,170	76,236,945	73,074,834
その他の活動資金収支差額	44,177,960	14,637,191	-6,295,440
当期資金収支差額	73,914,753	12,958,466	141,569,058

### 【利用実績推移】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
クリスマス・ヴィレッジ	93.5%	96.2%	98.9%
ショートステイ	52.8%	60.8%	69.7%
グレイスホーム	97.2%	95.0%	97.7%
ショートステイ	75.0%	70.0%	89.0%
高齢者在宅サービスセンター	64.0%	69.8%	82.2%
ノアーズ・ガーデン（入所）	70.0%	64.7%	58.6%
ノアーズ・ガーデン（通所）	100%	97.5%	90.8%
高浜けいあいの里	92.2%	87.5%	86.0%
ショートステイ	93.1%	117.1%	128.3%
デイサービス	61.3%	63.3%	59.9%
居宅介護支援事業所	90.6%	87.8%	72.7%
クリスマス・フォレスト	—	—	77.2%
ショートステイ	—	—	42.7%
居宅介護支援事業所	87.6%	91.4%	91.7%

## 3 総括

法人全体として、令和5年度は事業活動収入 2,178 百万円、事業活動支出 1,965 百万円、事業活動収支+213 百万円となった。施設整備等資金収支は、特段大きな修繕等はなく概ね施設整備借入れの返済支出を主とし△65 百万円、その他の活動資金収支△6 百万円となり、最終の当期資金収支は+141 百万円の着地となりました。

令和5年度は、特に内部統制・体制整備・施設間連携に力を入れ、また財政基盤の強化を念頭に取り組む1年となりました。来年度についても事業拡大も視野に入れつつ、引き続き法人内部の強化に力を入れていきたいと考えております。

## 4 事業部別 事業報告

---

法人本部

---

### 【総 評】

令和5年度は、内部統制の強化に特に力を入れた1年となりました。具体的には『決裁システム』『勤怠システム』の導入や『社労士との顧問契約』など、人事労務関係を一元化し法人での統一を進めております。また、拠点毎に異なっていた『就業規則』や『給与規程』についても法人での統一を致しました。

また、今年度開設しました『クリスマス・フォレスト』についても、1年目ということもあり、まだまだ安定した運営とは言えませんが、本部からのサポートを積極的に行っております。

### 【重点取組みと成果】

同一法人でありながら異なっていた『就業規則』『給与規程』『勤怠管理』等を法人で統一し、本部での管理への変更を進めております。また『決裁権限』『決裁基準』についても法人で平準化し共通認識を持てるよう各拠点との窓口を増やしている所です。

### 【人材の育成と職場環境の整備】

今年度までは2名体制で本部運営を行っていましたが、来年度から各施設の事務方3名を本部へ異動を行い、各拠点の情報を収集できる体制を構築すべく準備しております。異動後は順次、引継ぎと育成を進めていきたいと考えております。

### 【法人組織・マネジメント強化】

拠点毎の運営を行っており、良い面と悪い面が多数浮き彫りとなる1年でした。施設の事情、地域性、事業性を優先するあまり内部統制が不十分であったため、まずは体制作り、環境づくりに注力しております。

## 児童養護施設クリスマス・ヴィレッジ

### 【総 評】

改正児童福祉法の施行、社会的養育推進計画の見直し等を見越して、節目となる年となりました。高機能化、多機能化、地域分散化、自立支援、権利擁護など、改めて児童養護施設が現在求められているニーズ、制度改正の方向性を踏まえ、今後の施設のあり方について検討を進めてきました。また、本体定員の分割から2年目を迎え、児童が安心して生活できる環境を整えることに最大限注力してきました。ケアニーズの高い児童が増えている中、施設整備を含めより支援に適した環境を整備することが求められています。また、一時保護所の入所率が改善されない状況が続いており、最大限入所数を確保することが求められており、宿舍借り上げ制度の拡充を活用し、人材確保や人材育成計画について、一層取り組みを強化していくことが求められています。

### 【利用者支援】

一時保護所の入所率が高い状況を踏まえ、最大限入所定員を充たすよう取り組んできました。また、子どもと作る自立支援計画書を改定し、今まで以上に、子どもたちの意向を自立支援計画に反映できるよう整えました。治療的養育については、トラウマインフォームドケアの研修を今年度も実施し、より支援の現場で定着できるよう取り組みました。また、様々な職員が連携しながら、また医療機関ともしっかりと連携し、自立に向けた支援に取り組んできました。

### 1. 入所状況

#### (1) 各月入退所状況

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
入所現員		56	53	53	55	54	54	54	54	54	53	53	53	54
入所率 %		100	95	95	98	96	96	100	100	100	100	98	98	
入所	居宅	1		2										
	同種	1												
	他種													
	他													
	計	2												
退	家庭	1	1							1				

	自立	5	1											
	養子	1												
	他	14			1							1		
	計	21								1		1		
不在児	停止													
	入院													
	他													

(2) 入所状況(年齢別) 令和5年4月1日現在

	内訳	男	女	計
未就学	園内保育	0	0	0
	幼稚園	3	4	7
小学校	低学年	1	0	1
	高学年	4	1	5
中学校	1年	2	2	4
	2年	4	1	5
	3年	4	6	10
高校生等	1年	0	4	4
	2年	4	5	9
	3年	1	2	3
	その他	2	0	2

(3) 一時保護

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
受入人数	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
在籍人数	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1

- ・受け入れ人数合計：4人
- ・2ヵ月を超えたケース：3人
- ・平均在籍日数：84日
- ・最長日数：257日

2. 自立支援

(1) 中卒後の進路状況（退所児童・措置変更含む）

令和6年3月1日現在 児童数			就職	高校進学				各種学校進学		その他	計
				全日制		定時制/通信制		各種 (特 支) 学校	職業 訓練 校		
				公立	私立	公立	私立				
中学 三年 生	男	4		2	1	1					4
	女	6		2		3		1			6
	計	10									10

(2) 中卒後の進路状況（在所児童）

令和6年3月1日現在 児童数			就職	高校進学				各種学校進学		その他	計
				全日制		定時制/通信制		各種 (特 支) 学校	職業 訓練 校		
				公立	私立	公立	私立				
中学 三年 生	男	4		2	1	1					4
	女	6		2		3		1			6
	計	10									10

(3) 高卒後の進路状況

令和6年3月1日現在 児童数			就職	就職・進学		進学				その他	
				大学 短大	各種 学校 等	大学	短大	専 修・ 各種	その 他		小計
高校 三年 生	男	1								1	1
	女	2		1	1	1		1		2	
	計	3								3	

措置延長児童数 名

社会的養護自立支援事業数 1名

【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】

地域に開かれた施設として、様々な専門職を配置し、より地域の実態に応じた支援を行ってまいりました。里親支援については、今までの実績をもとにより継続して支援に取り組み、また施設内でも共有する取り組みを行ってまいりました。足立区の子ども家庭支援課とは、定期的な協議を実施し、児童養護施設が地域の子育て支援の機関として役割を果たせるよう、取り組んできました。また、地域の方のボランティアの方々のプログラムにより、自立に向けた

取り組みを進めてきました。

1. 里親支援

- ・定期巡回訪問 江東児相：養育家庭 27 件 足立児相：養育家庭 14 件
- ・新規フォロー 江東児相：養育家庭 4 件 足立児童：養育家庭 19 件
- ・里親委託数 0 人

2. 実習生の受け入れ

- ・34 名（大学 17 校・短大 4 校・専門学校 10 校・通信 1）

3. ボランティアの受け入れ

個人：学習ボランティア 3 名、ピアノボランティア 1 名、  
遊びボランティア 3 名、ミシンボランティア 1 名、  
植木剪定ボランティア 1 名

団体：4 団体 ※内容（清掃、ダンス、イベント、自立支援）

4. 寄付

寄付金 922,655 円

寄付物品：65 の企業・団体（食品、書籍、寝具、衣類、玩具、日用品、ランドセル）  
30 名の個人（食品、書籍、玩具、文具）

5. フレンドホーム 0 人

アフターケア

令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日 アフターケア実績	計
①職業又は家族等への訪問による定着確認・相談・指導の実施	289
②来所した児童及び家族等に対する相談・指導の実施	329
③児童及び家族等に対する電話による相談・児童の実施	2236
合計（①+②+③）	2854

【人材育成・職員研修体制】

治療的養育や権利擁護など養育の根幹となる方針については、会議などで繰り返しチームで共有し、また研修も実施しながら丁寧に取り組んできました。また、事業計画を全員で共有して取り組めるよう、運営委員会を中心に作成をしてきました。マニュアルについては、整備が進んでいないところがあり、引き続き整備が必要です。人事考課については、次年度の持ち越しとなりました。

1. 研修の実施状況

研修種別	回数	参加延べ人数
------	----	--------

			総数	施設長	指導員 等	看護師	栄養士	調理員 等	事務 員
施設外研修	新任研修	17	17		17				
	中堅・幹部研修	6	6		6				
	専門性向上のための 研修				27		1	1	
	施設見学等	1	4	1	3				
	その他								
施設内研修	新任研修	5	45	0	45	0	0	0	0
	中堅・幹部研修	1							
	専門性向上のための 研修	2	117	2	103	2	1	9	
	その他								

## 2. 園内研修実施内容

日程	内容	講師
9月14日	児童養護施設におけるトラウマインフォームドケア TIC を実践の中で活かすために	明治大学 加藤尚子先生
11月30日	ライフストーリーワークの理解と実践に向けて	仙台青葉学院短期大学 平田修三先生
3月13日	階層別中堅職員研修	キャリアコンサルタント 永久里恵先生
3月19日	アンガーマネジメント	インソース 渡邊先生

### 【職場環境の整備】

今年度より Kintone を導入し、全体的な書類の電子化を実施しました。「電子化（ペーパーレス化）」「押印レス化」の社会背景に合わせた新たな取り組みであり、電子化への移行を模索しながら進めてきた状況です。今年度より情報係を設置し、使用方法の共有や Kintone のカスタマイズ化などを行うことでより有効活用できるように電子化を進めてきました。また、電子化を進めることで「見える化」や「文書の共有」などが進み、情報の共有は大きく図れています。一方ではパソコン業務を苦手とする職員の負担が増している状況もあります。

昨年度活動した6つの委員会を今年度は4つに統合しています。職員によっては委員

会活動の業務削減が行われたことで、子ども支援に注力できる体制となりました。また、委員会業務の一部を係に移行したことで、各職員の業務量分担や役割分担が一層図れました。これまで全体行事の位置付けだったドリームサマーを廃止したことで会議数が減り、子ども支援の時間や業務に充てる時間がより確保することができました。

勤務表の作成方法や超勤についての検討と実施を行い、施設全体で法令順守の基で勤務作成を行っています。超過勤務を実態に合わせるよう取り組み、また超勤の状況を把握し不必要な超勤を減らすことができ、より法令に基づいた勤務体系にできています。一方では、休憩の取り方や休憩場所の確保が課題として挙がっているため、施設全体で休憩の取り方の検討を行う必要があります。

今後の働き方の多様化について全職員に対してアンケートを実施し、次年度より多様な働き方を推進するため、育児しながらも正社員で続けられるよう、正社員の要件を緩和しました。

## 1. 職員体制

施設長 1 名、事務員 1 名、児童指導員・保育士（常勤） 4 4 名

家庭支援専門相談員 2 名、心理療法担当職員 2 名、里親支援専門相談員 1 名、

医療的ケア担当職員 1 名、個別対応職員 1 名、自立支援担当職員 5 名、

治療指導担当職員 2 名、バックアップ職員 1 名、グループホーム支援員 1 名、

栄養士 1 名、調理員 4 名

常勤職員 計 6 7 名

非常勤事務 1 名、非常勤調理員 1 名、非常勤保育士 4 名

非常勤・パート職員 計 6 名

嘱託医（内科） 1 名、嘱託医（精神科医） 2 名、産業医 1 名

嘱託医 計 4 名

## 2. 勤務体制

- ・第三者委員会の提言や施設内プロジェクトの計画に基づき、支援の充実や職員の定着を図ることを目的とし、働き方改革を実施。書類や会議の精査を行った。次年度は引き続き継続して実施。

## 2. 会議

各部署会議 3 4 回、支援会議 2 2 回、運営委員会 2 2 回、職員会議 2 1 回

### 【安全管理・防災対策等】

安全面、防災面であまり整備出来ていなかった事もあり、避難経路の図面作成と貼り出し、避難場所の確認、非常用カバンの設置場所の変更、ヘルメットの準備等、出来る事から取り

組んできました。避難訓練も本園の訓練に合わせて参加し、職員の危機意識の向上など意識改善も図っています。合わせて利用児の緊急連絡先一覧を載せた利用者名簿も作成しています。(緊急連絡先の載っている依頼書が利用に合わせて届いていないこともあるため)。各グループホームの防災グッズや不足物確認を実施しています。災害時初動時備蓄品及び保管箱を購入が進んでいるが、また設置は出来ていません。

防災訓練については、内容が不十分であり文書指摘を受けています。各グループホームにおいては、ホームで検討し実施している現状です。災害時の避難経路の確認や実際に避難ロープを使用したり、災害時食料品のローリングストック、避難場所の張り出しや周知など多岐にわたり、こどもも自身の身を守る避難行動がとれるように訓練等を実施していますが、各部署での実施のため、職員意識や実施状況に差異が見られるため、来年度は実施内容を提示するなど全部署が住宅状況や設置場所に合わせた災害への訓練ができるような体制強化が必要と考えます。災害時用発電機の各グループホームへの常備及び毎月の充電確認実施が今期追加されており停電時の発電確保が出来るようになっている。

## 1. 安全管理 (避難訓練等)

### ・本園

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
避難誘導訓練	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
消火訓練	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
通報訓練	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地震訓練	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
図上訓練	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
夜間訓練								○				
水害訓練									○			

### ・GH

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
避難誘導訓練	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
消火訓練	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
通報訓練	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地震訓練	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
図上訓練	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
夜間訓練							○					
水害訓練							○					

## 2. 防災対策等

### ・AEDパッドの交換

- ・グループホームの防災グッズ及び保管箱の購入
- ・本園備蓄食料整理と購入

#### 【財務基盤の強化に向けた取り組み】

第二分園の建て替えと、本園の1ユニット（幼児フロア）を外出しグループホームにする計画を進めており、第二分園の引っ越しと工期の確認を行っています。1ユニットをグループホーム化することで職員配置の充足ができることもあり、幼児ユニットを地域で運営していくという施設としても大きな変化が見込まれます。幼児の集団生活のリスクや現時点で考えうる環境整備(図面)で先手を打てることには慎重に運営委員会にて進めることが出来ました。令和6年度改修し、双子ホームとしての運営は令和7年度に開始となる見込みです。

第三分園、第四分園の建て替え計画を進めている。別の土地で双子ホームのまま新築を検討していたが、現在の場所に広く土地を確保できる状況にあるため、図面取りから進めている。双子ホームならではの良さを維持しながら、個室確保を進めています。

#### 【その他】

つぐみの家の立て替えとひまわりのグループホーム移動の計画を進めるために、年度当初から「プロジェクト」を立ち上げ2ホームの引越しに向けて会議を行いました。つぐみの家は今住んでいる所の立て替えが完了するまでの仮住まい探しから意見交換が行われました。また、高機能プロジェクトからは引越しに伴う環境整理と備蓄の標準装備の提案もあがりリストを作成しています。

令和7年度実施予定のフォスタリングについては今年度から職員を荒川のフォスタリングに派遣し、フォスタリングの開設に向けて研修を行いました。派遣されている職員が毎月の職員会議でフォスタリングについての状況報告と職員に向けた勉強会を行い、全職員が把握に努めることができました。

## 児童養護施設クリスマス・ヴィレッジ ショートステイ

---

### 【総 評】

児童養護施設が地域の拠点として役割を果たせるよう、地域のニーズに応えるべくショートステイ事業を実施してきました。例年、利用実績は右肩上がりに伸びておりそれと比例して個別対応を要する利用児も増加傾向にあります。個別ケースに応じて多様な対応が求められることが増えてきており、今後の受入れ有無を含め利用頻度等について足立区子ども家庭支援課と協議を実施しています。突然発生するイレギュラーな事案など場合を想定しながら、よりコンパクトな情報共有が求められます。保護者の養育支援や育児負担軽減が事業の主たる目的であります。平日利用の際に学校を休むことになるなど、利用の仕方等さらなる工夫が必要であることが課題です。訪問支援については実績があまり増えず、伸び悩んでいます。今後の支援については、再度協議が必要となっています。

予算状況については、足立区の状況から昨年度より実績払いとなっていますが、実績が伸びていることから実際には増額となっています。しかし、安定した職員を確保する上では、実績に左右されることはデメリットでもあり、今後より質の高いサービスを提供する上では、引き続き協議が必要となっています。

### 【重点取組みと成果】

#### 子ども支援センターげんきとの定期的な話し合いの実施

昨年度年度末に一度、足立区との担当課長、係長、職員とショートステイ職員、施設長とこれまでで初めての協議を行うことが出来、運用のルールを検討やケースの共有、交流といった点で成果があったことから、より協力的に進めていけるよう今年度は定期的な協議（5月の顔合わせ、7月協議、10月協議、2月年度末協議）を実施しました。利用増に比例し特性ある難しい児童の利用も増えていることで、共有や対応の検討、さらに利用自体が難しい児童についても断る基準なども設定するなどして、増えてきている中でも安心安全に利用が進められるよう対応してきました。人事交流も開始し、足立区の子ども家庭支援課の相談員がクリスマス・ヴィレッジへの見学・学習会を実施することも出来ました。電話対応のみの繋がりから、対面で話し合い交流ができ、連携していく上で非常に重要な成果をあげられています。

### 【利用者支援】

2023年度 ショートステイ利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
日数※	212	222	210	240	242	255	209	242	215	196	241	306	2790
泊数	112	130	136	150	164	180	136	143	136	130	155	186	1758
人数	87	90	83	92	93	89	84	85	81	76	92	114	1066
世帯	36	35	30	36	38	40	35	44	30	31	39	56	450
要支援(人)	0	0	0	1	0	0	0	3	2	2	1	4	13
要支援日数	0	0	0	7	0	0	0	19	10	9	5	20	70
訪問(人)	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	5
訪問時間	2	2	2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	9
新規(世帯)	2	4	1	4	4	3	5	6	2	6	7	9	53
緊急(世帯)	0	1	2	0	0	1	1	3	2	2	4	5	21
キャンセル(人)								11	15	7	5	11	49

今年度も利用は右肩上がりであり、より地域のニーズに応えられている一方、個別対応を有する児童や低年齢児の利用が多くみられ、職員体制やアルバイトの配置などにも苦慮しました。そのような中でも、利用中の生活については、基本的な生活習慣を大事にすることができ、また適宜プログラムを組み、余暇などを過ごすことができました。

#### 【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】

今年度から施設にて開催している、地域の方にも開かれた「ヴィレッジマルシェ」において、ショートステイのPRの場を設けさせてもらい、チラシや資料提供により地域の方にご案内することでの周知と利用の促進に繋がっています。また、マルシェ内の販売ブースにおいて、ショートステイ利用の児童がお手伝いさせてもらうことで貴重な社会経験となっています。地域の児童に対しても取り組んでいることについて、引き続きクリスマス・ヴィレッジが広く地域支援の資源として力を発揮していければと思います。

#### 【人材育成・職員研修体制】

昨年度整備したショートステイマニュアルをもとに新任職員、異動職員、現職員が対応にあたり、OJTや指導においてもマニュアルをベースに伝えていきました。新任職員においては、より職員に応じたゆるやかな育成を心掛けました。

研修においては、新任研修、中堅職員研修への参加は実施することが出来たが、利用が増えていることで、流動的な勤務となりやすく園内の研修でさえも出られる人数が限られてしまうことがありました。

#### 【職場環境の整備】

マニュアルを整備したことである程度の基本ラインは整えられ、職員によって対応が変わったりすることもなく、また判断に迷うことも少なく対応することが出来るようになりました。ただそれでもイレギュラーな事態は起こりうるため、その際には個人で判断せずに、

話し合う中で対応を考えていきました。話しやすい雰囲気や、話せる環境を意識して引き続いて対応していきます。環境も適宜整備し、また書類の整理も行い、働きやすい環境、運用しやすい環境を整えてきました。

#### 【安全管理・防災対策等】

利用児童が増えている中でありましたが、定期的に安全確認を行い、大きな事故がなく過ごすことができました。また救急箱については、中身について今年度から本園看護師の指導・協力のもと、必要な薬品を揃え、数なども定期的に確認し管理しながら、突発的な怪我などに対応するよう努めました。

防災においては本園施設の訓練に参加しているが、有効なものとしてまだまだ工夫の余地があります。

#### 【財務基盤の強化に向けた取り組み】

足立区との繰り返しの協議により、今年度より基本の固定された予算でなく、児童養護を参考とした年齢や特性別の実績に応じた新たな請求の形を実施し、着実に増えている利用や、特性などの難しさに応じた成果が反映される結果となっています。また当日キャンセルにおいても、利用予定に合わせて職員体制や食事の面でも準備していた中では、利用開始 24 時間前以内につきキャンセル料として 1 泊分の請求ができる形というのも子ども支援センターげんきに掛け合い、相談し合いながら認めてもらい請求できるようになりました。しかし、本来必要とされている職員配置や働き方からみれば、まだまだ不十分と言わざるを得ず、引き続き交渉を続けていくことが必要となっています。

## 特別養護老人ホームグレイスホーム

---

### 【総 評】

新型コロナウイルス感染症も 5 類に引き下げられたことで、行動制限などが無くなり、徐々に以前の生活に戻ってきた。稼働についても、90%以上を維持しており、各専門職がご利用者の日々の生活の様子を観察することで健康状態把握し、体調管理に努めたことにより、入院されるご利用者も少なく、重篤な状態になる前に、早期に医療機関と連携を図った結果、稼働率の向上に繋がった。平均稼働率は 97.7%となった。

### 【重点取組みと成果】

新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられた後も、引き続き感染対策を行いながら、感染予防・感染拡大などに留意してきた。

現在使用しているおむつの使用について、コスト削減に向かって適正化を図るために、おむつ業者とのヒヤリングを重ねながら、おむつ業者よりおむつの種類や使用方法などのアドバイスを頂き、現在現場において業者の提案を受け入れ試行している。また、おむつ業者より、職員へのおむつの当て方講座を開催し、適正化に向けたおむつの使用について取り組みを行った。

### 【利用者支援】

新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられたことにより、面会時間や面会期間などの感染対策をとりながら、直接フロアに行きお部屋でご家族が面会出来るようにした。その中でもフロアで誕生会をはじめとして各種行事や出前等によるお楽しみ食事会の実施協力を行いました。また、施設から出て近隣の散歩など行い、気分転換を図るように工夫した。

### 【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】

令和 5 年度は、ボランティア・実習生の受け入れはなかった。

### 【人材育成・職員研修体制】

・ジョブメドレアアカデミーによる eラーニングの研修により、全職員が研修を受けることが出来た。

・令和 5 年度は WEB 配信の研修をのみならず、集合研修など施設から出て研修に参加した。そのことで、実際に他の施設の取り組みなどグループワークにより直接話しを聞くことが出来た。研修で学んだ事を施設での情報共有を行い、当施設においても今後取り組んでい

く課題として話し合いが出来た。

#### 【職場環境の整備】

- ・ 3・4・5階食堂において、床の張替を実施した。
- ・ 令和5年2月8日（木）東京都監査部による実地検査により、指摘された環境整備の項目において、見直しを行った。

#### 【安全管理・防災対策等】

- ・ 福祉避難所（第二次避難所）の開設に伴い、足立区危機管理部災害対策課と協議を行い、現地調査や備蓄倉庫及び備蓄用品の管理について話し合いを行った。

#### 【財務基盤の強化に向けた取り組み】

- ・ 物価高騰が続いているため、節電や節水を心がけるように職員へ周知している。
- ・ 消耗品等・緊急性の無いものについては、購入を見合わせて出費を減らすようにした。

#### 【その他】

施設の車両の老朽化により、共同募金会にて補助金を申請し、歳末たすけあいによる東京募金配分にて内示を受けた。

## 特別養護老人ホームグレイスホーム ショートステイ

---

### 【総 評】

新型コロナウイルス感染症の5類への引き下げにより、行動制限なども無くなり以前のようにショートステイの受け入れを行っていたが、12月に新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生してしまい、一時稼働率が70%台にまで落ち込んでしまった。その後、受け入れを再開し稼働も回復し、3月には90%台まで向上し平均稼働率も89%となった。毎月新規利用者からの申し込みがあり、相談員を中心に各専門職が協力をしてリピーターに繋がるように取り組みを行った。

また、緊急ショートステイや措置なども積極的に受け入れを行った結果、長期利用の方により、稼働率の向上に繋がった。デイサービスの利用されている方がショートステイを利用されるケースが多く見られているため、他部署との連携を密も行い、情報共有を行うことで、ご利用者・ご家族・職員においても、安心してご利用が出来る環境を提供出来た。

### 【重点取組みと成果】

新型コロナウイルス感染症の5類への引き下げにより、施設内の見学を再開することで、ご利用されるフロアや居室の様子、他のご利用者の様子など実際にご家族が目で見ることが出来た。

### 【利用者支援】

ご利用中のご様子をご家族・担当ケアマネジャー報告すると共に、食事の形態など現在の提供方法では、誤嚥などのリスクが高いと感じられた場合、ご家族に丁寧に説明し、食事形態の変更などご家族に指導することで、在宅での生活をより安心して過ごすことが出来た。

### 【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】

令和5年度は、ボランティア・実習生の受け入れはなかった。

### 【人材育成・職員研修体制】

- ・2024年の介護報酬改定により、東京都社会福祉協議会の主催する研修を受けた。
- ・また、介護報酬請求事務に関する研修会にも参加し、生活相談員として請求業務に関する知識を得て理解を深めることで、コンプライアンスにも意識を持つようになり、自身のスキルアップにもつながることが出来た。

### 【職場環境の整備】

- ・居室や食堂など環境において、気持ち良く過ごすことが出来るように環境整備を行った。
- ・トイレにウォッシュレット機能のトイレが設置していないことで、ご利用者から不満の声があり、リピーターとはならなかった。

#### 【財務基盤の強化に向けた取り組み】

- ・稼働率の向上を目指すため、新規や緊急ショートステイなどの依頼があった際に、直ぐに受け入れが出来る体制を整えることで、担当のケアマネジャーを待たせることが無く、受け入れの状況を説明出来たことで、新たなご利用者への紹介が増えた。
- ・また、居宅介護支援事業所に出向き、担当ケアマネジャーに挨拶を兼ねてショートステイご利用中のご利用者の状況を説明するような営業活動を行った。

## 高齢者在宅サービスセンター西新井本町友興の園

---

### 【総 評】

令和 5 年度の稼働率は 80% 台に達して維持していたが、1 月に入りご利用者の体調不良により入院者が増えたこともあり稼働が下がってしまった、さらに浴室に設置している機械浴の故障により浴槽が一台のみの可動になってしまい入浴を目的としているご利用者の受け入れが思うようにいかなくなってしまった。

機械浴については、老朽化に伴い部品の供給が止まってしまっているため、修理が不可能な状態である。入浴設備及び環境整備の課題が残ってしまった。

体調不良であったご利用者も徐々に戻ってきており、70% 台後半まで稼働率を回復することが出来た。

### 【重点取組みと成果】

- ・新型コロナウイルス感染症も 5 類に引き下げられたことにより、行動制限等がなくなったため、新規利用者の獲得を積極的に行った。
- ・相談員の入れ替えにより、新たな相談員の育成・指導にも力を入れながら、他事業所との連絡・調整など現在利用中のご利用者を含め、利用状況の丁寧な説明により信頼関係を構築しながら、新規利用者の紹介の依頼など増加するよう注力を行った。

### 【利用者支援】

- ・ボランティアや実習生の受け入れ等による行事やレクリエーション活動は実施出来なかったが、職員による日々のレクリエーション活動の充実化を図った。
- ・引き続き「食のデイサービス」と銘打っており、お誕生のお祝いなど季節に応じた行事食を提供した。
- ・新型コロナウイルス感染症も 5 類に引き下げられたこともあり、お花見に出掛ける外出行事も再開した。

### 【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】

- ・午後のレクリエーション活動として、ハンドメイドによるアクセサリを作成するため、講師を招いて活動することが出来た。
- ・短時間利用の受け入れを行いご利用者も少しずつ増えてきており、ニーズに応えることが出来た。

### 【人材育成・職員研修体制】

- ・人材育成
- ・介護業界全体に人手不足が重要な課題となっており、介護未経験者・経験問わず個々の状態に合わせた、教育を行い人材育成に力を入れている。
- ・介護報酬改定に伴い、研修の実施が義務化されることにより、研修体制の構築が課題として残る。

### 【職場環境の整備】

- ・送迎車両について、10 乗リフト付き送迎車が老朽化のため、新車の導入を進めている。JKA による福祉車両・就労支援車両の整備事業の補助金を活用するため、申請している。
- ・入浴室、機械浴故障により安全な入浴と効率的な入浴方法など入浴室の環境の整備及び改修。
- ・次世代介護機器導入支援事業により、入浴支援シャワーキャリーを導入した。

### 【財務基盤の強化に向けた取り組み】

- ・新規利用者獲得のため、居宅介護支援事業所担当ケアマネジャーとの連携による広報宣伝活動により新規利用者の依頼に向けて取り組んだ。
- ・物価高騰による支出面の見直しを行う。具体的に水道光熱費の節約、物品購入時の商品の選択、車両燃料費の節約。

## 児童心理治療施設ノアーズ・ガーデン

---

### 【総 評】

コロナ感染症が昨年5月に5類に移行され、子ども達の活動も前年度以上に緩和され屋外の活動も久々に出来るようになり、夏のBBQ、水泳教室（海水浴）、プロ野球観戦、デイキャンプ、ボウリング等々満喫した活動ができた一年でした。（充実感や満足感に満ちたと思います。）

しかし、開設6年目の今年度は様々な課題が指摘され、その対応に追われた一年でもありました。外部からの通報で職員間でのパワハラ問題、子どもへの権利侵害の疑いがあるのではないかとの指摘がありました。職員間の課題については以前からも指摘されており、令和2年度に実態把握の為に職員へのアンケート調査の経緯もある。今回は外部からの指摘を重く受け止めた法人本部や当施設第三者委員の先生方のお力も借りながら、実態把握の為にアンケート調査を実施しました。しかし、以前にもアンケート調査を実施したが何も変わる事がなかった状況を知っている職員からは「アンケート調査を実施しても何も変わらないのでは？」と言った諦めとも思えるような発言さえあった。

しかし、沖縄で唯一の児童心理治療施設であるが故に、施設としての役割や重要性に鑑み施設の健全化・風通りの良い職場づくりを熱望する多くの声が職員から寄せられた。法人本部や第三者委員の先生方のお力も借りながらアンケート調査や面談等も実施しました。また、職員へは大学の先生を招聘し職員研修の一環として学習会も実施しました。様々な方々のお力をお借りしながら徐々にはありますが風通しの良い職場、職員が互いに尊重する職場に変化していく道筋ができたように思われる。

一方子どもへの権利侵害に対してはどこから対応していいか迷いもありましたが、子ども達には権利についての学習会やワークショップの実施・アンケート調査の実施や面談等を沖縄CAPセンターに依頼しました。更に入所施設で集団生活を日々送っている子ども達の生活全般に関わる規則・約束、生活支援マニュアル、高校生生活ルール等を見直等を優先的に行いました。当施設の一連のルール等は施設開設前に他府県の施設から取り寄せ、必要と思われる生活ルールを独自に施設の立ち上げに関わった職員がいろいろ考え作成した経緯があるが、児童の権利擁護が強く叫ばれる今日、更に児童福祉法の改正等々もある中で施設の生活支援マニュアル等は児童福祉や児童の権利擁護と対比した場合はどうなのか？様々な視点から検討することになる。検討するからには外部の専門家にも加わることが重要であり、弁護士や大学の先生、法人の理事の先生にも加わっていただき、ノアーズ・ガーデン改善委員会を立ち上げることになり、現在も継続中である。

職員間の課題や児童支援における不適切と思われる課題がある中での一年ではありましたが、開所して6年目の若い施設で様々な困難にも立ち向かいながら紆余曲折し、子ども

達にとって素晴らしい施設になるための礎となると考えたい。課題解決後の職員の生き生きとした今後の活躍に期待したい。

## 【利用者支援】

### 『女子ユニット』

#### ①基本的な生活習慣の確立

集団生活を児童等がお互いに気持ちよく生活できるよう、子ども会議で議題にあげ、困っていることや改善してほしいこと等を確認しながら行った。特に排泄においては、トイレの使用や生理用品の片付けの仕方を適宜取り組んだ。整理整頓については、週末の清掃時に居室の整理整頓も行い、必要に応じては担当職員も一緒に取り組んだ。

#### ②対人関係の構築

様々な子どもが大人との関わりを通して、人に頼る力、人と関わる力を身につけ、拠り所ができたという感覚がもてるように支援につとめた。トラブルが起きた時は職員が介入して、子どもと一緒に解決の方法を考えていくなど、困った時には職員が適宜、手助けできるように支援につとめた。学校でのトラブルについても、学級担任と担当職員と連携しながら対応に当たることができた。

### 『男子ユニット』

#### ①必要な環境調整を行う。

児童が生活の見通しを持てるよう各ユニットの掲示板に、今日明日の予定表を掲示し、ユニット行事や全体行事の前には、周知や掲示を行うように意識し行ってきた。しかし、職員の欠勤や児童の問題行動の対応等で予定変更を余儀なくすることも多々あり、児童から不満の声も聞こえた。又、ユニットルールの明文化にも取り組みを行った。又、必要に応じてルール変更にも取り組んだ。

児童の心身の不調に関しては、看護師や病院のドクターとも連携し、必要に応じて通院や入院等にも対応を行った。

#### ②多様性の保障

月 1 回の子ども会議を設定し、児童からの意見や困り感を聴く場を設け、児童の意見についてもユニット会議で検討した。児童より「大型スーパーに行ってみたい」と要望があった際には、行事を計画し実現させる等、出来るだけ児童の意見が尊重出来るよう職員全体で考え、取り組んだ。LGBT に関する配慮を求める児童に対しては個別で聞き取り、その都度検討し対応した。

### 『心理療法』

#### ①集団心理療法の中には、心理士不足によって実施困難な療法があった。

個別心理面接について・心理士は、担当児童に対し月に 1~4 回程度の面接を実施した。トラウマに焦点化された構造化面接や日々の出来事、問題行動について焦点化する非構造化面接を行った。

## ②集団心理療法について

ア動作法は心理士の不足と沖縄少年院からのボランティアを募る事が出来ず、実施出来なかった。

イアートセラピーは新入職者が決まり次第、依頼する予定であったが、年度内に入職者が居らず実施出来なかった。

ウ心理劇は小学生の A チームと中学生の B チームに分け（男女混合）、それぞれ月に 1 回、土曜日か日曜日に実施した。

エダンスセラピーは小学生の A チームと中学生の B チームに分け（男女混合）、第 4 日曜日に実施した。また、外部講師を依頼し技術向上にも努めた。

## 『ファミリーソーシャルワーカー』

家族関係が良好なケースでは積極的な面会、外出・外泊を行ないました。特に長期休暇の際は保護者の希望に沿うよう児童相談所と相談し、長期外泊を行ないました。家族関係が不適切な場合は、児童の意見を尊重しつつ家族へ生活の様子や成長について、電話もしくはお手紙で児童の情報提供を行ない、児童に関心を持ち続けてもらえるよう、発信を継続しました。家族関係で課題がある場合は、児童や保護者の気持ちをお互いに代弁して伝えることで円滑なコミュニケーションを目指しました。保護者には沖縄県の保護者支援事業で行なわれるペアレントトレーニングへの参加を促し、2 ケースの家族が参加して頂きました。今後も家族関係の再構築を目指し、取り組んでいきます。

## 『医療的ケア』

### ①子どもたちの健康管理

子ども達の健康管理では、入所前に実施される健康診断や、既往歴の有無の確認、日常生活の中での健康状態を観察し、ユニット、分校とも情報共有、受診調整や、通院計画を立てている。また、近年入所する児童の複雑な背景から、精神科薬の服用を要する児童も増えて来ている。その為、児童精神科医（非常勤）の定期的な診察をとおして、投薬治療を要する児童、また、衝動性高く入院のリスクが高いとされる児童においては、外部医療機関の通院継続や医療機関の連携を図るなどして対応している。令和 2 年度から、令和 5 年にわたり、医療的ケアにかかる入所児童の人数は下記の通りである。

注)個々通院先医療機関、通院延べ日数は省略

	R2.4.1 現在	R3.4.1 現在	R4.4.1 現在	R5.4.1 現在
医療ケア要する児童	20	14	12	12

### ②職員の健康管理

年2回の、職員法令定期健康診断、夜勤者対応の特定健康診断を実施している。  
前年度(令和5年度)は、健康診断の積極的な呼びかけが少なかったこともあり、健康診断の出足が遅く、前期、後期の健診実施者数が期日までにだいぶ下回る結果になった。その為、外部監査機関からは、指導事項の対象となり、改善策に急務を要す。

### ③保健衛生、疾病予防、感染対策

コロナ感染の大流行期に、コロナ感染対策委員会を発足。今年度で5年目になる。  
感染対策委員会の開催や、検討課題時に随時開催を行うことで、職員全体で情報共有し、防止にあたった。感染症2類から5類になり、コロナ感染症のリスクは減ったが、疾病予防対策予防として「手洗い・うがい・(外出時には)マスク着用」は習慣化している為、今後も継続したいと考える。

## 『学校関係』

### ①協力体制作り

- ・学校への登下校時に施設職員と教員で申し送りを行い、児童の些細なことも情報共有を欠かさず行っている。
- ・月に1度合同会議を行い、情報の共有・確認を実施。
- ・学校時間に児童が不穏となった際には、連携を図り施設職員も児童の対応にあたった。
- ・外部会議(要対協)、内部会議(児童支援計画会議)等にも積極的に参加していただき、入所から退所後までも丁寧な児童支援を実施して頂いている。

### ②学校の支援による効果

様々な理由で入所に至る児童が多く、個々の特性や学力にも格差があり、学習支援や社会性・協調性の育て直し、心身への配慮等が求められるが、大度分校は入所から児童一人ひとりに対する、個に応じた配慮が伺える。そのため、児童は楽しそうに登校し、学習への意欲、学力向上、学習習慣が身につくことが早い。学校行事を通して、社会性・協調性も育まれている。

今年度も無事に中学3年生の児童2名が高校に合格している。

### ③高校(外部)との連携

当施設では、入所対象児童として「原則、義務教育就学中」としており、施設に併設された分校との連携の下で総合環境療法を提供している。しかしながら、施設開設から6年目となり、令和5年度には高校生(普通高校1名、特別支援学校高等部3名、就学支援センター1名)が在籍となった。個々の事情により児童相談所と協議のうえでの措置継続ではあるものの、施設外の学校に通学する児童・生徒に関しては、児童心理治療施設という枠組みそのものが支援の難しさに繋がる一面がある。

### ④大度分校学級種別児童数(令和6年3月1日時点)

	小学校	中学校	計
--	-----	-----	---

通常学級	6	2	8
自閉症・情緒障害特別支援学級	4	2	6
知的障害特別支援学級	2	0	2
合 計	12	4	16

※泊高等学校 就学支援センター1名

※西崎特別支援学校高等部 1名

※豊見城南高等学校全日制 1名

### 【人材育成・職員研修体制】

令和5年度はコロナが収束し始めたこともあり、外部研修は直接参加に戻りつつあったが、直接参加かオンラインという二択の研修が多くあった。

今回、全国児童心理治療施設研修会にて、当施設から生活支援リーダー、心理の2名で事例発表を行うことができ、良い経験を積む機会があった。研修会を通して他施設の職員の方々との交流を深めることができたことも、研修参加の意味を成しているように思う。当施設は離島なため、外部の県外研修には直接参加が他施設よりも困難ではあるが、今後も費用や時期を検討しながら、職員の育成について前向きに受講させたいと考える。

施設内研修については、前年度に引き続き、心理士主催研修、心理士SV研修、全体職務会における包括的暴力防止プログラム(CVPPP)を実施した。

#### ○施設外研修会・会議等への参加状況

研修・会議名	開催月	職種	参加者名	場所/参加方法
令和5年度 全国児童心理治療施設協議会 九州ブロック3年前後の職員交流研修会	6月	支援員	東江 鈴 宮城 弘幸	クローバープラザ(福岡県)
令和5年度 沖縄県児童福祉施設等 職員初任者研修会	7月	支援員 支援員(非常勤)	植木 喜未 赤山 夏香	沖縄県総合福祉センター (ファシリテーター：松本)
令和5年度 全国児童心理治療施設協議会 九州ブロック職員研修会	7月	治療課長 支援サブリーダー 心理士	松本 一史 城間 幸乃 仲宗根 貴洋	グランデはがくれ(佐賀県)
2023年度 全国児童心理治療施設 職員研修会 第2回施設長会	9月	支援リーダー 心理士 FSW	本間 拓磨 川平 優 ロザリオ 悦子	ホテル・ヘリテージ (埼玉県 嵐山学園)
令和5年度 新設児童心理治療施設職員 新任職員研修	10月	支援員(非常勤)	座波 祐輔	子どもの虹情報研修センター (神奈川県)
第40回沖縄県児童養護施設研究大会	11月	施設長 支援リーダー 支援員 栄養士	玉城 孝 本間 拓磨 東江 鈴 山城 愛	沖縄県総合福祉センター

令和5年度 全国児童心理治療施設 職員研修会 生活部会	11月	支援サブリーダー 支援員	ウエンツ美那子 松井 啓喜	筑後いずみ苑(福岡県)
神奈川県児童福祉施設協議会・全国児童心 理治療施設協議会中堅職員研修会	1月	心理士 支援員 支援員	川平 優 新垣 天紀子 植木 喜未	オンライン参加
2023年度 テーマ別研修 「子どもの声を聴く」	3月	支援リーダー	與那國 貴子	オンライン参加

### ○施設内研修実施状況

研修・会議名	開催月	講師名等
CVPPP(包括的暴力防止プログラム) ミニ研修会	4月、7月 9月、11月 1月、3月	支援サブリーダー/瀬底正虎 個別対応職員/金城佳孝 *全体職務会内でのミニ研修会
職員研修(子どもの権利擁護と心理治療とは)	10月、11月	本村 真 氏(こども支援・政策研究所/所長) *琉球大学 人文社会学部 人間社会学科 教授
参加報告(全国児童心理治療施設職員研修会)	10月	支援リーダー/本間拓磨 心理士/川平優 *全体職務会内でのミニ研修(報告会)
性教育セミナー(児童・職員向け)	11月	徳永 桂子(女性と子どもの人権ファシリテーター)
参加報告(職員同士の連携と児童対応 における葛藤の共有)	12月	支援員/松井啓喜 *全体職務会内でのミニ研修(報告会)

### 【財務基盤の強化に向けた取り組み】

取り組みとして行ったことは、事務消耗品の購入先を増やし価格を見て出来る限り安価な所からの購入を行い、価格の見直しに繋がることとなった。

入所の定員及び通所の定員に関して、沖縄県との協議を行い令和6年度より入所及び通所の定員変更が認可された。令和6年度に向け、収入面での強化に繋がることとなった。

### 【児童状況】

#### 『入所児童について』

令和5年度は4月1日の措置児童数として入所19名でスタートしている。年間を通じた新たな措置児童は入所8名。年間の措置解除の数を差し引くと、年度末(令和6年3月31日)時点では、入所児童20名となっている。

新規入所ケースを含め、措置児童の90%以上が何らかの被虐待歴を有している。当施

設に入所した時点では、児童相談所の社会調査の中でも把握されていなかった被虐待のエピソードが入所後に新たな事実として児童の口から語られることもあった。

令和5年4月には、前年度から継続入所中の児童1名が高校に進学した。進級して高校2年生となった児童、途中入退所した児童をあわせると、令和5年度は計3名が施設から外部の高校に通っている(普通高校1名、特別支援学校高等部1名、通信高校1名)。また令和6年3月には、児童2名が高校受験に挑み無事に合格している。その内の1名は高校進学に伴い、他施設へ措置変更となった。次年度(令和6年度)は高校生4名(普通高校1名、特別支援学校高等部1名、通信高校2名)からのスタートになる見込みである。

#### 児童の入退所状況 (令和5年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
月初日 在籍者数	19	18	18	18	16	14	14	13	15	16	17	19	197	16.4
月間入所						1 (1)	1		3 (2)		1 (1)	2 (2)	8 (6)	0.7
月間退所	1			2	3		2					1	9	0.7
一時保護 委託		1	1	1	1	1	2	2	1				10	0.8

#### 入所前の状況(令和6年3月1日時点)

自宅	児童福祉施設	施設(その他)	里親	その他(病院等)	計
14	3	0	0	2	19

#### 退所先(令和6年3月1日時点)

児童養護施設	家庭復帰	その他	計
3	2	3	8

#### 入所児童の学年別状況(令和6年3月1日時点)

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	計
男	1	2	3	3		1	1	1		12
女			3		1		1		2	7
計	1	2	6	3	1	1	2	1	2	19

#### 入所児童の状態像等

当施設⇒ 令和6年3月1日時点 (総数19名)

全国⇒「全国児童心理治療施設協議会調査」令和5年10月1日時点

- ・男女比【当施設】男児12人(63.0%)、女児7人(37.0%)

- 【全 国】男児 (58.0%)、女児 (42.0%)
- ・就学別【当施設】小学生 12 人 (63.0%)、中学生 4 人 (21.0%)  
高校生 3 人 (16.0%)
- 【全 国】小学生 (45.4%)、中学生 (38.5%)、高校生等 (15.2%)
- ・被虐待経験【当施設】 19 人 (84.0%)  
【全 国】 (81.6%)
- ・自閉症スペクトラム(ASD) 【当施設】 5 人 (26.0%)  
【全 国】 (40.4%)
- ・注意欠如多動性障害(ADHD) 【当施設】 8 人 (42.0%)  
【全 国】 (40.1%)
- ・療育手帳所持【当施設】 1 人 (5.0%)  
【全 国】 (7.8%)
- ・精神保健福祉手帳所持【当施設】 1 人 (5.0%)  
【全 国】 (- %) \*全国統計無し
- ・精神科薬物療法【当施設】 14 人 (73.0%)  
【全 国】 (60.7%)

保護者の状況(令和6年3月1日時点)

	実父 実母	実父 継母	実父 養母	実母 継父	実母 養父	継父 継母	実父 のみ	実母 のみ	その他	計
男		1		2			2	7		12
女				2			2	3		7
計		1		4			4	10		19

児童相談所別／市町村別 入所児童(令和6年3月1日時点)

	市町村名	男	女	計
中央 児 相	那覇市	4		4
	浦添市	3	1	4
	宜野湾市	2		2
	与那原町		1	1
	石垣市		1	1
	小 計	9	3	12
コ ザ 児 相	沖縄市		1	1
	読谷村		1	1
	うるま市	2		2
	名護市	1		1
	北谷町		1	1

	今帰仁村		1	1
	小 計	3	4	7
	合 計	12	7	19

※市町村は施設入所時の出身世帯(保護者)の住所地で計上

### 『通所児童について』

令和5年度は4月1日の措置児童数として通所8名でスタートしている。年間を通した新たな通所開始は5名。年間の措置解除の数を差し引くと、年度末(令和6年3月31日)時点では通所措置児童8名(うち1名は3/31付で措置解除)となっている。

当施設においては、児童相談所との調整のうえ退所後一定期間は通所措置をとっていただき、手厚いアフターフォローを提供している。

### 通所児童の措置開始・解除状況(令和5年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
月初日 在籍数	8	9	9	9	9	10	9	10	10	9	8	8	107	9.0
月間 開始	1				3 (1)			1					5 (1)	0.4
月間 解除				1	1	1			1	1		1	6	0.5

### 通所児童の状態像等

当施設⇒ 令和6年3月1日時点 (総数8名)

全 国⇒「全国児童心理治療施設協議会調査」令和5年10月1日

- ・男女比【当施設】 男児4人(50.0%)、 女児4人(50.0%)  
【全 国】 男児 (56.7%)、 女児 (43.3%)
- ・就学別【当施設】 小学生2人(25.0%)、中学生5人(62.0%)、高校生1人(13.0%)  
【全 国】 小学生 (29.8%)、中学生 (38.2%)、高校生等 (32.0%)
- ・被虐待経験【当施設】 8人(100.0%)  
【全 国】 (- %) \*全国公表無し
- ・自閉症スペクトラム(ASD)【当施設】 4人(50.0%)  
【全 国】 (40.4%)
- ・注意欠如多動性障害(ADHD)【当施設】 3人(38.0%)  
【全 国】 (- %) \*全国公表なし
- ・精神科薬物療法【当施設】 5人(63.0%)  
【全 国】 (50.0%)

【実施行事】

女子ユニット実施行事

5月5日	GW お買い物体験
7月15日	七夕
8月10日	BBQ
8月15日	海水浴
8月18日	夏祭り（男女合同行事）
8月22日	海水浴
10月28日	ハロウィン
11月23日	秋のピクニック
12月27日	イルミネーション
12月30日	女子ユニット大掃除
12月31日	大晦日お菓子
1月1日	初詣
1月3日	正月遊び
1月13日	鏡開き・餅焼き会
2月23日	バームクーヘン
3月17日	進級卒業を祝う会
3月24日	ピザ成形
3月25日	ピザ焼き
3月29日	1年お疲れ様会（食事会）

男子ユニット実施行事

4月23日	研修会
5月4日	ボウリング
6月3日	ジミー大西作品展
6月28日	プロ野球観戦
7月1日	ピクニック
7月7日	七夕
7月21日	水泳教室
7月28日	児童福祉施設球技大会【野球部】
8月4日	デイキャンプ
8月11日	水泳教室
8月17日	釣り
8月21日	どろんこ遊び
10月1日	野球部前期打ち上げ

10月7日	陣取り合戦
10月31日	ハロウィン
11月23日	地域清掃
11月25日	マラソン大会
12月29日	イルミネーション
12月31日	年越し
1月1日	正月遊び
1月2日	初詣
1月20日	マナー講習会
2月24日	野球キャンプ見学、後期打ち上げ
3月16日	空手体験会
3月14日	合格、就職祝い
3月20日	ホテルランチブッフェ、買い物体験

#### 全体実施行事

4月29日	進級進学を祝う会
8月18日	夏祭り
8月31日	FIBA バスケットボール W 杯
9月3日	スポーツ講話（バスケ）
10月14日	調理実習（太巻き）
11月3日～5日	性教育
11月17日	観月会
12月9日	食育講話
12月24日	クリスマス会
12月26日	スポーツ講話（野球）
1月10日	ホテルディナーブッフェ
2月17日	調理実習（楚辺ポーポー）
3月23日	卒業・修了を祝う会

#### 【安全管理】

避難訓練や危険物の確認、防災設備などの目視確認のいずれかを毎月実施した。今年度（R5年度）から、職員のみで行う訓練を取り入れ、避難時の職員連携の確認、防災設備等の設置場所と使用法の浸透をはかった。また、年2回の夜間を想定した避難訓練を実施し、夜間時の災害に備え安全に避難が行えるようにした。また、年2回の総合訓練では消火訓練を実施し、消火器の取り扱いなどを学び初期消火を慌てずに行えるようにした。次年度も引き続き大度分校との合同訓練を実施し、連携強化を行っていく。

実施月	時間	訓練内容	実施月	時間	訓練内容
4月 26日	16:50～	男子ユニット側洗濯室よりの出火を想定して職員のみで避難と通報訓練	10月 24日	10:10～	事務所よりの出火を想定した、職員のみでの避難と通報訓練
5月 31日	16:00～	女子ユニットキッチンよりの出火を想定して避難と通報訓練	11月 10日	14:40～	地震を想定した、分校との合同避難訓練
6月 16日	14:45～	分校理科室よりの火災を想定した分校との合同避難と通報訓練	12月 19日	13:30～	女子ユニット側洗濯室よりの火災を想定した、職員のみでの避難と通報と消火訓練の総合訓練
7月 10日	11:30～	書庫よりの火災を想定した、職員のみで避難と通報と消火訓練の総合訓練	1月 31日	17:30	男子ユニットよりの夜間出火を想定した避難訓練
8月 24日	9:00～	厨房よりの出火を想定した避難訓練	2月 27日	14:30～	事務所よりの出火を想定して、職員のみで避難と通報訓練
9月 23日	17:30～	女子ユニットよりの夜間出火を想定した避難訓練	3月 28日	14:00～	厨房よりの出火を想定した避難と通報訓練

## 特別養護老人ホーム高浜けいあいの里

---

### 【総 評】

長期利用者について前年度 1 年間の入所者に比べ退所者が 5 名多く、今年度 4 月より入所減員分を含め入所を勧めておりましたが、12 月及び 2 月に退所者が一度に 5 名の退所があった事・看取り体制が整わず病院入院に頼らなければならなかった事を含め入所者が追い付かず空床日数の増加による稼働率の低下及び介護報酬も減少となった。半面、ショート利用者の空床利用を条件付きで開始した事や短期相談員の営業努力により稼働率は 100% を超え介護報酬は増額となった。事業活動収支ではプラスになりますが、施設整備費等を含めた事業収支はマイナスとなった。

経費支出については、建物の老朽化による空調機修繕費用・物価高騰における値上げに対し値上げ幅・値上げ時期等交渉しましたが、水道光熱費を含め全般的に増額となった事も前年度に比べ事業活動収支減少となった要因です。

採用職員においては、4 月より高校新卒 2 名を含め介護職正職員 5 名・非常勤 2 名・事務職 1 名の採用となりましたが、今年度は介護職正職員 2 名・非常勤 1 名の退職となりました。

### 【重点取組みと成果】

今年度は、新型コロナウイルス感染症が 2 類から 5 類に引き下げられましたが、コロナ感染者の数は減る事が無く、引き続き利用者の命を守る・安心して生活していただく為に、新型コロナウイルス感染症を施設に持ち込まない・広げない事を重点に職員の認識・意識を高めた感染拡大防止対策を実施致しました。近隣地域に集団感染が出ておりましたが、等施設ではクラスター・集団感染に至りませんでした。アフターコロナを見越した空床利用に取り組みとして長期ユニットでの対応を実施し短期利用者の稼働率 100% 超を目指し達成できた。

### 【利用者支援】

家族との面会は、今年度より予約制による利用者のお部屋での面会体制を行いました。一同でのレク行事は、今年度も見送りましたが夏祭り・文化祭等ユニット毎に季節を取り入れたレクを実施し季節感を感じてもらい取り組みを行ってきた。最後の棲み家として、穏やかに利用者個々に合わせた介護に取り組みしました。

看護師・介護職を中心に利用者の状態変化を見ることで早期の治療体制がとれ手遅れになる事は有りませんでした。

### 【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】

残念ながら、アフターコロナを考えて地域との交流を検討いたしましたが、コロナ感染症患者・インフルエンザ感染症患者が、町内でも収まらない事から未実施といたしました。

#### 【人材育成・職員研修体制】

感染症対策の研修を中心に、ユニット毎での研修を実施。ユニット型の為、協力ユニットへの応援体制が必須であるが、コロナ禍でユニットによって差が出てきていた為、今後の課題となった。

#### 【職場環境の整備】

コロナ感染症を施設内に広げない為に不特定多数の人が接触する個所の清掃や消毒液の配置。また、職員全員に手指消毒・ゴーグルやアイシールドの貸与や抗原検査キットの配布を行った。

#### 【安全管理・防災対策等】

施設内では土砂災害・火災・原子力災害・停電の訓練実施。

シナリオ通りの訓練とせず、実際に災害が起こった場合の利用者の安全を考えた動き方の訓練を実施した。

外部協力訓練として

福井県実施の原子力災害訓練・・・今回は非難先への移動訓練に参加

高浜町・JR西日本の津波訓練・・・大風の為中止

高浜町と津波避難ビルとして協定を結んでおり「高浜町・JR西日本の津波訓練に参加協力しておりますが、今年1月1日に能登半島地震による津波警報が高浜町に発令され地元地区住民が避難されてこられました。協定内容・避難対応について見直しが必要で有る事が確認できました。今後、高浜町と共に検討していく予定です。

#### 【財務基盤の強化に向けた取り組み】

空床1ユニットを利用出来るように、職員採用のアプローチ活動・企業説明会に参加

消耗品削減を考えサンプル・古紙利用・古布の活用

オムツ・事務用品を含め適正在庫となるように全職員に発注意識を持たす事が一部職員になってしまった。

### 【総 評】

年間を通して昨年より稼働率についてはやや下降傾向となった。契約人数については、6～7割程を推移している。短期入所を利用される方の増加と老健入所・体調不良による休みや入院などご利用者の様々な状況による状態の変化により稼働率伸び悩んだ。また新規ご利用者の獲得はなかなかできておらず。各居宅支援事業所への営業活動を定期的に行っているがあまり効果はみられない。しかし、既存のご利用者からの利用回数を増やしたい希望の方が数名おられ現在おられるご利用者からの満足度は高いとみられる。

次年度目標については、再度稼働率の上昇を柱に事業に取り組みたいと考えている。

### 【重点取組みと成果】

他事業所との良好な関係築き連携しやすい環境作りを行った。大きなトラブルなく物事に対処ができた。しかし新規ご利用者の契約にはあまり繋がらなかった。今後も継続して良好関係を築いて行きたい。

### 【利用者支援】

ご家族とのコミュニケーションを積極的に行い希望や要望に柔軟に対応を行った。ご利用者に対しては1日安全に楽しんで過ごして頂く様に多種多様なレクリエーション（制作、外出、運動、調理）を幅広く行った。

上記の結果として利用回数を増やしたいという声につながった。

### 【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】

コロナの為ボランティアや実習生の受け入れは出来ていないが地域の祭り「灯音祭」に灯笼の作品の展示を行った。これからも実現可能な範囲で地域との交流やボランティアの受け入れを行いたい。

### 【人材育成・職員研修体制】

感染症対策の研修を中心に研修を行い職員に周知を務めた。都度変わる指針や方針に柔軟に対応が出来たように思う。月1回デイサービス内の会議を開催した。

### 【職場環境の整備】

毎朝のミーティング、月一回の会議を設け職員が発言できる環境づくりを整えた。また、発言しやすいように職員同士のコミュニケーションも積極的に行った。

### 【安全管理・防災対策等】

作成した災害時のBCPを元に職員で話し合い防災意識を高める事が出来た。また、ご利用者協力のもと避難訓練を行い、実際の避難経路の確認、避難場所までどのくらい時間を要するかの確認を行った。今後も定期的の実施し安全に過ごして頂けるように努めたい。

### 【財務基盤の強化に向けた取り組み】

他事業所と関係作り、ご家族との関係作りを行い新規利用者の契約、利用回数の増加に努める。怪我や病気で長期入院のご利用の枠に関しては今後も要検討する必要がある。

### 【総 評】

住み慣れた地域で、必要な医療・介護サービス等を継続的一体的に受けられるように医療と介護の連携は必要不可欠であり、役割分担と連携を強化していかなければならない。高浜町内で訪問診療を行う医師も増え在宅での看取りに関して多少不安が軽減した。

一方、介護者が就労しているケースが多く在宅での看取りを希望しない高齢者も増えており担当する利用者の方でも病院で最期を迎える方も多かったように感じた。しかしながら日頃からの体調管理や緊急時の対応において医療介護の連携が重要であり今後も強化していきたいと考える。

### 【重点取組みと成果】

高浜町内のケアマネジャー連絡会にて町内の訪問診療（在宅での看取りが困難）の現状を訴えた。それにより行政は現状を理解し、町内の診療所と高浜病院で協定を結び、連携し訪問診療を行う体制を確立した。今後も町民が住みよい街になるよう町内の医療介護の現状を行政に伝えていきたい。

### 【利用者支援】

ご利用者、ご家族からの情報および各事業所から得た情報を医療サービス（病院や診療所）や介護サービス事業所へ伝達し、情報の共有に努めた。入院時の情報提供、退院時の情報収集など必要に応じ行う事で退院後の在宅生活がスムーズに行えるようサービス調整を行った。住み慣れた地域で、医療・介護サービス等を継続的一体的に受けられるように、連携を行った。

### 【人材育成・職員研修体制】

施設内研修（感染対策研修や事故防止研修、虐待防止研修など）への参加、若狭ケアマネジャー連絡会、福井県介護支援専門員協会等主催の研修など外部研修へも参加した。又、主任介護支援専門員の資格更新の時期であったため計 11 日間の研修にも参加した。適切なケアマネジメント手法を使った研修であり新しい視点でのマネジメントの方法を学ぶことが出来た。

### 【職場環境の整備】

施設内の通所介護事業所や短期入所生活介護、長期の入所など各相談員と連携し報告や伝達等を行った。事業所間のコミュニケーションが重要でありそれが職場環境を良好に保つ

ことにもつながると考える。

#### 【その他】

町内の事業所が介護職員不足にて事業の縮小や新規利用不可等にて希望するサービスが利用できない状況にある。近隣のサービス事業所に依頼する事例もあり今後も介護職員の不足が深刻な課題である。

**【総 評】**

計画に基づき ア) からカ) の事業を行った。

ア) 在宅介護についての総合的な相談・指導

イ) 本人や家族に代わっての各種保健福祉サービスの手続き支援

ウ) 介護機器の使い方指導

エ) 町内要援護となるおそれのある高齢者の実態等の把握と各種公的福祉サービスの  
広報業務

オ) 地域ふれあいサロン、介護家族の会等の運営

カ) その他、在宅介護支援等に関すること

**【重点取組みと成果】**

包括支援センターより情報提供、定期訪問依頼のあった方への訪問を随時行い状況の把握を行ってきた。独居や高齢者世帯の自宅に訪問し生活面や現状の聞き取りが主な業務となっている。訪問した状況を月 1 回の地域ケア会議で包括支援センターや社協の地域支援担当者、青郷地区在介担当者と報告し合い、情報共有を行った。今後もお互いに連携し協力対応して行きます。

**【利用者支援】**

介護相談の中には介護保険で福祉用具の購入や住宅改修のみで対応可能なケースもあり、相談者宅に訪問し状況確認し、身体状況や住宅環境に応じ提案や援助を行って来た。今後も関係業者とも連携し、その方の状況に応じた環境整備等行えるよう尽力します。また、介護保険未申請の方には申請相談等にも応じて行きます。

**【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】**

地域ふれあいサロンや介護家族の会の運営協力を行ってきました。コロナ禍であったため、参加者減少、活動するサロンの減少もあった。しかし、サロン参加者からは人との集まり、交流の重要性を感じ地域とのつながりが必要と感じた。閉じこもり等で孤立する高齢者が増えないよう活動を続けて行きたい。

### 【職場環境の整備】

地域ふれあいサロン参加等で事業所を不在にすることも多く外出予定時間等を事前に事務所内に伝達し対応依頼を行った。職場内でコミュニケーションをとるように心がけていた。

### 【安全管理・防災対策等】

1月1日の石川能登地方の地震にて当町内でも津波警報が発令し町民の大多数が避難した。幸い被害はなく経過したが、その中で独居や高齢者世帯の方、または重度の寝たきりの方など自力での避難困難な方の避難について町でも考える機会ができた。今後も包括支援センターと連携し住民の災害時の避難方法など検討していく必要があると考える。

### 【その他】

高浜町地域包括支援センターや青郷地区在宅介護支援センターと連携を取り地域住民に対する支援を行った。今後も継続して行っていきます。

## 児童養護施設クリスマス・フォレスト

---

### 【総 評】

開設1年目だったので、想定外のことがいくつか起きた。施設設備の面で不備な面が一部露呈してスタート時に躓き、児童への関わりで多少影響を受けた。グループホームの改装が円滑に進まず、入所児童の受け入れに遅延が生じてしまった。入所児童の特性から、重大な事故が発生し職員間に動揺が生まれた。またパワハラ問題で職員が退職や病休になり、労働衛生環境に課題を残した。

反面、年度末には定員を充足し、新規事業のショートステイ事業、フォスタリング事業は滞りなく運営できた。

### 【重点取組みと成果】

①施設運営の基盤づくり、②児童の帰属意識の涵養、③良好な職場風土の醸成、④地域の施設理解が重点項目であったが、①及び③に成果が実らなかった。①では、組織運営とりわけ人材育成の面が円滑に進まなかった。③は特定のホームに限定できるが、問題を抱えた職員への人事管理に不手際があり、法人との連携で今後は進めていくことが望ましい。児童の個々の課題は重篤であるが、専門的なケアができており、児童は施設の生活を少しずつ受け入れている。ショートステイ事業をはじめとして、地域に施設が少しずつ溶け込んでいる。

### 【利用者支援】

第三者評価結果からもうかがえるように児童の満足度は高い。ただまだまだ子ども一人ひとりの心の奥底にある不安全感やトラウマを軽減できるには、個別性の尊重を推し進め、その子の最善の利益とは何なのかを、追究していくことが大切である。また家族関係が希薄なケースが多いが、家族関係調整を進めていくためのアウトリーチな進め方も展開していく必要がある。入所に向けて一通りの方法で進めてきているが、丁寧なアセスメントができていないかといえば、必ずしも万全とはいえず、再度、見直しをしていく必要がある。昨年起きた不幸な出来事をけっして再発してはいけない。

### 【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】

ショートステイ事業やフォスタリング事業があるので、新設施設としては地域への取り組みが進んでいるように思われる。今後は、施設設備の利用、具体的には4階ホールの貸し出しや職員の地域子育て支援への参画等、具体的な取り組みを実践していくことが重要である。尚、ボランティア、実習生の受け入れについては、1年目ということもあり体制が整うまで様子を見ることにした。今年度からは、計画的に受け入れていく予定である。

### 【人材育成・職員研修体制】

ほとんど計画的に進むことができず、大きな課題を残している。とりわけ新卒職員の研修がヴィレッジとの格差が生じてしまったため、回復していくことが必要である。また社会人経験者が多いので、階層別研修を充実させ、満足度を高めていくことが重要である。実際、社会人経験が豊富なことで、新施設設の運営の安定に寄与したことは確かなので、貴重な人材として尊重していくことが、今後のフォレストのマンパワーにつながっていく。

リーダー層の職員研修も、施設運営の視点を組み入れた研修が求められている。

### 【職場環境の整備】

ほとんど整備されてきたが、職員ロッカー等の不足、下駄箱の拡大、サイクルスタンドの設置等、いくつかの面で改善していくことが必要である。昨年度、7月まで1ホーム空いていたこともあり、簡単な休憩所が確保できていたが、現時点では、休憩時間等に気軽に体を休める場所がない。できるなら、近隣に少し体を休める場所を確保したい。

タイムカード導入により、昨年度より正確な出退勤が刻印できてよいが、更に合理的な勤怠管理システムの導入が要望として上がっている。

またタブレットの導入やパソコン台数の増加等、業務省力化に向けて改良していくことが重要である。

### 【安全管理・防災対策等】

新規施設なので外回りの施錠は完備されている。その他防犯カメラの設置や施錠設備の補填等、改善されてきているが、居室の施錠設備やその他門柱の移動、屋上の金網柵の設置替え、サイクルスタンドの設置等、修復工事が望まれる。

防災対策では、自家発電バッテリー、備蓄品の補填、防災グッズ(携帯小型スピーカー、防災本部旗、懐中時計、ヘルメット等)の整備など、不足不備の面が残っている。

併せて課題として、防災訓練の定例化、防災意識への教育啓発活動が沈滞している。今後、意欲的に取り組める企画や行事を展開していく必要がある。

### 【財務基盤の強化に向けた取り組み】

昨年度の秋以降、施設入所の受け入れが多少滞ったが、年度末には、定員充足する。入所は一時保護の入所だったケースもあったが、新年度は全児童、完全措置入所となる。内3名は被措置児童加算の対象であり、職員の入職が望まれる。

今後は、滞りなく入所を進めていく方針は変わらず、安定的な財源の確保に努めていく。ただ幼児の入所依頼は少なく、現状では学童以降の子どもたちが多いと思われる。

ショートステイ事業は、職員2名加算の補助額増額になり、予算規模は大きくなる。フォスタリング事業は、予定通り安定している。

今後は、本園4ホームの内、1ホームをグループホームとして、本園外への設置を考えていく。

#### 【その他】

施設が開設されて1年を経過し、地域の様子や学校の対応、児童相談所をはじめとする関係機関との距離感等が把握できるようになってきた。今後、入所の進め方、退所の仕方など配慮しながら、児童養護施設の本体機能を充実させるとともに、それらの機能の他に地域の子育て支援のセフティーネットとしての役割を果たしていくことが望まれる。

内部的には、人材育成に力点を置いた職員研修を体系化し、将来性のある良好な職場風土がかたちづくられるよう努めていくことが大切であると思われる。

## 児童養護施設クリスマス・フォレスト ショートステイ

---

### 【総 評】

利用実績(星美ホームにて実施)は、一昨年度 (R4 年度) から 2.3 倍増加。利用日数は見込みより多く達成された。今後も安定的な運営を目指し、リピーターの定着と安定した生活の基盤づくり、新規児童も含め、利用児が安心安全な生活を過ごせるよう支援の質の向上を目指す。昨年度は高校生等の高齢児が継続的に利用していたが、今後定着したリピーターの年齢層が上がることや、新規受け入れを考慮し、高齢児が過ごしやすい生活や支援コンテンツの拡充などを目指していく。

### 【重点取組みと成果】

児童が安心安全な生活を過ごせること、安定的な事業運営のためのリピーター児の獲得を重点項目として取り組んだ。利用の多い週末に職員を集中的に配置することで大人が目が増え、大きな事故は起こらなかった。各家庭に渡す連絡帳を工夫し、利用の振り返りを家庭でも行うことで、保護者や児童から好評を得て、リピーター児の獲得に成功した。一方で要支援ショートステイの増加、及び一般ショートステイでも性格や発達特性に配慮が必要な児童が多くなるなど、ケアニーズが上がってきていることが今後の課題である。

### 【利用者支援】

利用中は職員が子どもたちの感情に寄り添い、コミュニケーションを通じて安心感を提供した。教育的な支援として、高齢児への個室提供といった学習環境の整備、小学生は宿題や勉強のサポートを行った。子どもたちが将来に向け、自立した生活を送るために必要なスキルを身につける支援として、お菓子作りや買い物練習をプログラムとして組み込むなど、子どもたちの意見も取り入れながら実践した。保護者への支援は人員不足から行えていない。本年度は子ども家庭支援センターと連携をとり、保護者との面談や情報提供、家庭での状況改善のためのリソース提供などを行うことが望ましい。

### 【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】

昨年度は、素戔鳴神社のお祭りや、さつき会館でのイベント行事に参加した。普段から荒川自然公園や南千住ふれあい館で遊ぶなど地域のリソースを活用し、子どもたちの経験や交流を促進している。今後は地域のニーズや課題に対応したプロジェクトに参加し、地域社会に貢献する取り組みを行う予定である。例えば、地域清掃活動や地域イベントの企画運営などが挙げられる。また、夏休みに学生ボランティアを1名受け入れている。子どもたちと年齢も近いことから交流が生まれ、社会性やコミュニケーション能力の向上に役立ったと

いえる。本年度も長期休みに学生ボランティアを予定しているため、子どもたちのサポートや教育活動の補助など、様々な分野での支援を依頼したい。

#### 【人材育成・職員研修体制】

昨年度は新規採用職員 2 名が東京都子育て支援事業委員会のオンラインミーティングに参加している。他施設のショートステイ施設職員とのグループディスカッションを通し、ショートステイ事業が抱える課題について意見を交わす有意義な機会となった。本年度は東京都福祉保健財団主催の子育て支援員研修に職員 2 名が参加予定である。

#### 【職場環境の整備】

予約管理の一元化を進めるため、DX 化推進室と連携しているが、有料拡張プログラムであり、予算面からも実現していない。また、ショートステイ利用児専用下駄箱の整備や、料理中は児童に背を向けてしまう構造のキッチン、各居室への鍵の設置など改善が必要である。昨年度は人員不足から職員の休憩時間や場所が確保できなかったが、本年度は職員間で声をかけ合い、休憩がとれる職場へ改善する。

#### 【安全管理・防災対策等】

昨年度、ショートステイ内で非常持ち出し品を確認するなどは行ったが、本園と合同で定期的な防災訓練の実施は行えていない。本年度は本園と連携し、防災訓練への参加を行う。また、子どもたちの安全確保のため人員補填は急務であり、非常勤職員も含め、緊急時の対応方法や避難手順を周知する必要がある。保護者に対しても、事前に災害時の対応方針を明示することも重要であるが現状明示できておらず、今後展開していくことが望まれる。

#### 【財務基盤の強化に向けた取り組み】

本年度は職員 2 名加算の補助額増額となったが、持続可能な収益源の確保や財政管理の効率化、さらなる支援の獲得など、複数のアプローチが必要である。今後、利用料や送迎費の見直しや適正価格の設定を行うことが望まれる。また、政府や自治体からの補助金や助成金の獲得に積極的に取り組み、財政支援を受けることで、財政基盤を強化する。

#### 【その他】

開設当初より、台東区への送迎ドライバー確保が難しい状況が続いている。緊急利用の場合、更に確保するのが難しく本園職員と連携して行っているが、今後契約ドライバーの家庭事情で送迎対応も難しくなるなど、運用が不安定である。リスクや安全面を考慮し、荒川区が実施している福祉タクシーなど、送迎サービスの利用の要望を上げている。

## 児童養護施設クリスマス・フォレスト フォスタリング事業

---

### 【総 評】

荒川区から受託したフォスタリング事業は、これまで二葉乳児院が担ってきたが、今年度クリスマス・フォレストに移行し、1年目としては順調なスタートを切ることができた。ひとえに、荒川区子ども家庭総合センター開設時から二葉乳児院が積み上げてきた盤石な土台があってこそのものだと思う。一方で、クリスマス・フォレストの良さとして、人間関係の温かさやチームの連携が良く取れており、業務を支え合い助け合って、初年度のフォスタリング事業を無事に乗り切ることができた。

### 【重点取組みと成果】

移行準備期間として、クリスマス・ヴィレッジから2年前より1名、1年前より2名の職員が、二葉乳児院に出向する形でフォスタリング機関の職員の一員となって勤務していたため、クリスマス・フォレストとしてフォスタリング事業を初めて受託した令和5年度でも、大きな問題やトラブルはなく、滞りなく業務を遂行することができた。既に登録されている里親に、受託業者が変わることによる心配や迷惑をかけないよう、特に配慮をしてきたが、年度末に一人のベテラン里親から、二葉からよい引き継ぎができていた旨のお言葉を頂き、初年度の、大きな成果と感じられる重くありがたい言葉となった。

### 【利用者支援】

- ①里親への相談支援：里子を受託して半年未満の新規委託支援を42回、未委託の里親宅への訪問を12回、里子を受託している里親宅への訪問を15回、その他、里親からの電話・来所などでの養育助言を61回行っている。
- ②相互交流：養育家庭に対する相互交流事業を9回、養子縁組・養子縁組成立後家庭に対する相互交流事業を13回行っている（どちらも他機関との共催を含む）。
- ③里親と委託前の児童との交流支援：11件行っている。
- ④一時保護委託・短期委託への支援：13件行っている。
- ⑤里親へのマッチング支援：70件行っている。
- ⑥育児援助者派遣：1家庭2件に行っている。
- ⑦自立支援：里親宅に受託されている中高生に対する自立支援を9名に計50回行っている。里親宅を単立した1名に対し、アフターケアを4回行っている。
- ⑧里親トレーニング：認定登録後研修、フォローアップ研修、自立学習会などの里親研修を6回、協力家庭研修を2回、里親トレーニング研修を1回実施している。

### 【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】

- ①里親養育体験発表会の開催：40名の参加があった。
- ②映画「インスタント・ファミリー～本当の家族を見つけました～」観賞会の開催：64名の参加があった。
- ③啓発イベント：パネル展示・里親クイズを5ヶ所（ふらっとにっぽり、荒川総合スポーツセンター、ゆいの森あらかわ、庁舎区民ギャラリー、尾久図書館）で開催している。
- ④里親個別相談会の実施：15回開催している。
- ⑤出前講座：4回（子ども家庭総合センターの実習生、区内ファミリーホーム、荒川区教育センターの心理士、道灌山学園保育福祉専門学校の生徒・先生）開催している。
- ⑥里親開拓事業を下記の通り実施している。
  - ・普及啓発リーフレットの設置：区内図書館、ふれあい館等に設置
  - ・親族里親・養育家庭（親族）リーフレット設置：子ども家庭総合センター入口
  - ・チラシ配布（里親大募集、里親個別相談会）：区内図書館、ふれあい館等に設置
  - ・ポスター掲示：区営掲示板（320カ所）にて10回掲示、区内駅（JR、京成線、東京メトロ、つくばEXの各駅）
  - ・荒川区のホームページに里親ページを作成
  - ・荒川区コミュニティバス「さくら」車内アナウンス
  - ・都営バス（草63系統）車内アナウンス
  - ・地域イベント：あらかわ福祉まつり、交流都市フェアに出展
  - ・バナー（荒川ではじめる 里親をはじめる）：子ども家庭総合センター入口に設置
  - ・広報物：オリジナルシール、風船、のぼり、絆創膏、付箋を作成
- ⑦ボランティアの受け入れ：1名の大学生から学習ボランティアの問い合わせがあったが、里親家庭でのニーズがなかったため、ショートステイのボランティアを紹介した。

### 【人材育成・職員研修体制】

児童養護施設や乳児院での経験はあっても、スタッフ全員がフォスタリング機関に配属されてから、業務を1から覚えているため、年齢は関係なく新任職員のような状態から、1年経ってようやく、フォスタリング業務の全体像が掴めるといった感じである。知っている職員が知らない職員に業務を伝え、一つ一つの業務を覚えるOJTが日々繰り返されている。

一方で、里親が受ける登録前研修や登録更新時研修など、東京養育家庭の会が行っている全ての研修に、聴講生として参加させてもらっているため、大きな学びとなっている。また、職場内研修や派遣研修を通じて、里親制度、社会的養護、虐待等、様々な知識やスキルを、研修を通じて身につけることができた。

### 【職場環境の整備】

子ども家庭総合センター3階のファミリールームをフォスタリング機関のオフィスとしている。外の明るさも分からない窓が一つあるだけの白い壁に囲まれた小さな部屋で、4～

5人の職員が日々勤務をしている。冷蔵庫と湯沸かしポットは以前からあったが、今年度から電子レンジを導入し、昼食時には大いに役立っている。エアコン設備はあるものの、夏は暑く冬は寒い状態のため、引き続き子ども家庭総合センターの管理係には状況を訴えるとともに、扇風機やヒーターの導入も視野に入れていく。

#### 【安全管理・防災対策等】

年に1度、子ども家庭総合センターで避難訓練を実施しているが、参加してこなかったの  
で、次年度は最低一名が参加して、スタッフで共有をはかりたい。また、防災ヘルメットや  
懐中電灯などがいないため、防災グッズの購入を検討する。

#### 【財務基盤の強化に向けた取り組み】

区からの受託事業であり、ほぼ全ての業務は区の承認を受けた業務内容となっているが、  
費用対効果の観点でも、業務の見直しや改善を図り、より良い業務としていきたい。

### 【総 評】

特定事業所加算の継続の要件を満たし維持出来るように、ケアマネジャー同士が事業所の状況の確認を行った。

### 【重点取組みと成果】

利用者本位・自立支援を根本として特定のサービス事業者等に偏ることが無く、公平・中立の立場で利用者支援に取り組みをした。

### 【利用者支援】

要支援状態或いは要介護状態に利用者が可能な限り自宅に於いて、自立した生活を継続して送れるように支援した。

保険者から介護認定調査委託を受けた場合、公平な調査を行うと共に所要の知識を深めるために、研鑽に努めた。

### 【地域社会への取組み・ボランティア・実習生の受け入れ等】

主任介護支援専門員更新要件でもある、東京都福祉保健財団から実習生の受け入れを行った。

### 【人材育成・職員研修体制】

介護支援専門員としての資質向上、専門的知識、技術向上を図るため、事業所内での会議にて、話し合いを重ねながら人材育成や研修体制の構築を行いました。

### 【職場環境の整備】

ライフワークバランスを大事し、仕事と生活の両方を調和させ、バランスを取ることで、ケアマネジャーが心身に於いて行き詰るような状態を避けることで、長くケアマネジャーとしての業務を続けることができるような職場作りをした。

### 【安全管理・防災対策等】

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられた後も、訪問前後のアルコール消毒・マスクの着用など引き続き感染対策を講じた。

足立区が震度4以上の時は、平日・休日に関わらずどこにいても、事業所内ラインに安否

確認の連絡を入れるよう体制を整えている。

**【財務基盤の強化に向けた取り組み】**

ムダ・ムリ・ムラを無くすように計画的かつ効率的な業務を行い、残業ゼロを目指した。適正なケアマネジメントの PDCA サイクルと具体的な実践を行うことにより、包括や病院などご利用者の紹介を受けられるように信頼関係を構築できるように取り組んだ。